

決算説明資料

(2016年12月期 決算)

2017年2月3日
東証2部

オーナンバ株式会社

目次

ONAMBA CO.,LTD.

- I . 決算の概要(PL、BS、CF等)
- II . 2016年12月期のトピックス
- III . 2017年12月期の経営戦略
- IV . 2017年12月期の業績予想

連結損益

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度		当連結会計年度		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
売上高	40,937	100.0%	36,896	100.0%	△4,040	△9.9%
売上原価	34,408	84.1%	30,078	81.5%	△4,329	△12.6%
販売費・一般管理費	5,751	14.0%	5,604	15.2%	△146	△2.6%
営業利益	777	1.9%	1,213	3.3%	435	56.0%
営業外収支	4	0.0%	△140	0.4%	△145	△3094.0%
経常利益	782	1.9%	1,072	2.9%	290	37.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	355	0.9%	△363	△1.0%	△719	△202.4%

《売上高》 太陽光発電関連製品の需要の大幅な低下や、円高による為替換算の影響により、売上は9.9%減少した。

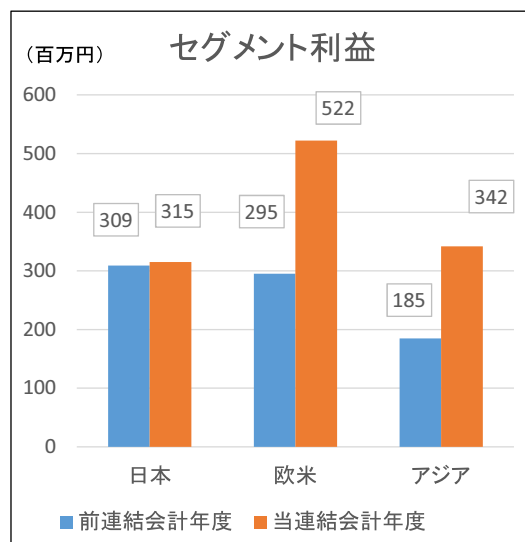
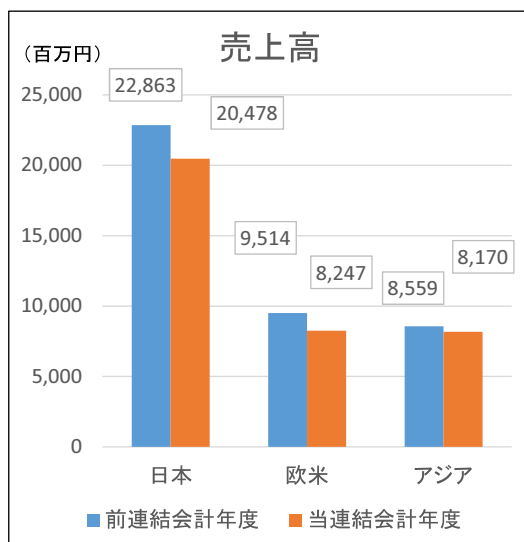
《営業利益》 車載関連他の売上増加、コストダウンの徹底及び為替対策などによる企業体質の強化を図った結果、営業利益は増加した。

《当期純利益》 国内外生産拠点の再編に伴う事業構造改善損の計上などにより、親会社株主に帰属する当期純利益はマイナスとなった。

3

セグメント情報

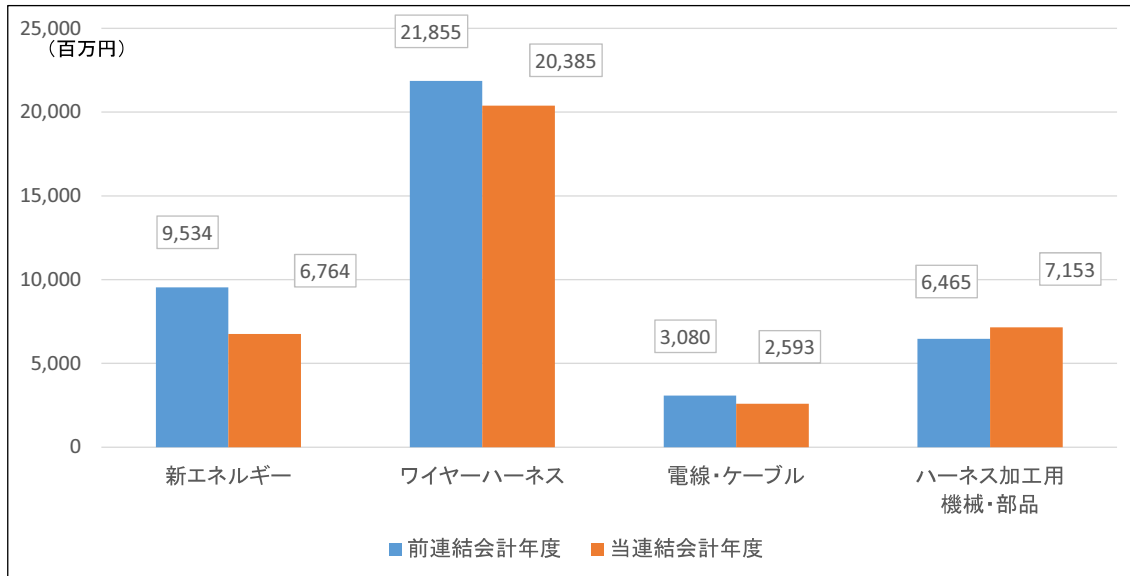
ONAMBA CO.,LTD.



《売上高》 日本は、太陽光発電関連製品の売上が大幅に減少した。海外では、円高による為替換算の影響により減少となった。

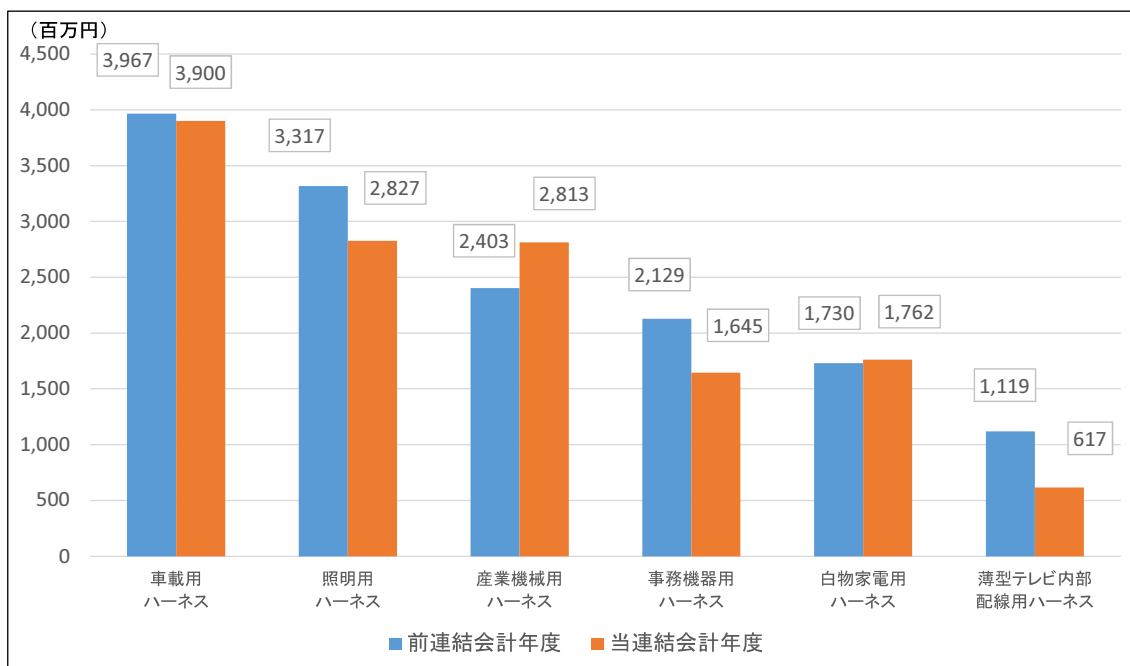
《セグメント利益》 日本では、為替対策及びコストダウンの効果により、セグメント利益は前年並みを確保した。海外では、車載他の売上が増加、コストダウンの取組を行った結果、セグメント利益は増加した。

4



新エネルギー部門は太陽光発電関連製品の需要の低下により売上は大幅に減少したが、ハーネス加工用機械・部品の売上は増加した。

ワイヤーハーネスの主な製品別売上高



ワイヤーハーネス部門は、全体で為替換算の影響を受け売上は減少したが、産業機械用ハーネスは拡販取組により売上は増加した。

◆設備投資

固定資産取得額	801百万円
減価償却費	761百万円
(主な投資内訳)	
国内子会社の電線製造設備等	196百万円

◆人員の推移

(人)

2015年12月末	2016年12月末	増 減
5,340	4,247	△1,093

(増減理由)

マレーシアやカンボジア子会社の清算により減少した。

7

連結財政状態(主要な科目)

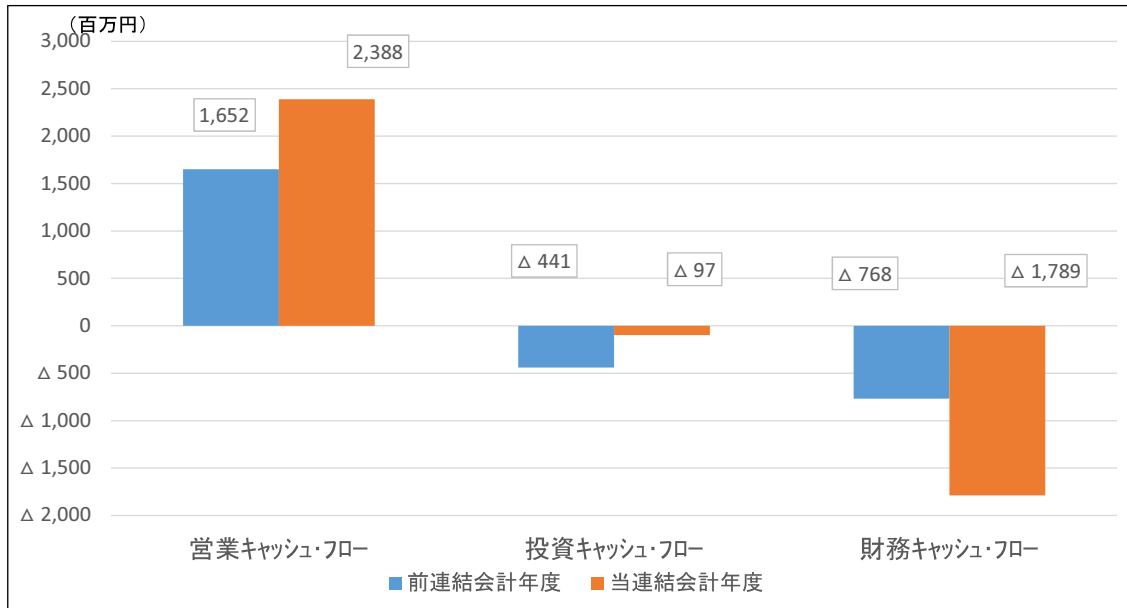
ONAMBA CO.,LTD.

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度		当連結会計年度		増 減
	金 額	構成比	金 額	構成比	
流動資産	24,510	74.3%	22,914	76.5%	△1,595
(現金及び預金)	5,807	17.6%	6,049	20.2%	242
(売掛債権)	11,661	35.4%	10,990	36.7%	△671
(たな卸資産)	6,280	19.1%	5,321	17.8%	△959
固定資産	8,457	25.7%	7,037	23.5%	△1,419
(有形固定資産)	6,106	18.5%	4,998	16.7%	△1,107
資産合計	32,967	100.0%	29,951	100.0%	△3,015
負債	16,657	50.5%	14,617	48.8%	△2,039
(買掛債務)	6,685	20.3%	6,296	21.0%	△388
(有利子負債)	7,545	22.9%	5,822	22.8%	△1,722
純資産	16,310	49.5%	15,334	51.2%	△975
負債・純資産合計	32,967	100.0%	29,951	100.0%	△3,015

売掛債権、たな卸資産の減少及び、事業構造改善により固定資産の圧縮を図ったことで総資産は減少した。自己資本比率は47.8%から49.2%へ上昇した。

8



営業キャッシュ・フローは、コストダウンの徹底及びたな卸資産削減などの施策により、2,388百万円の収入となった。
 一方、財務キャッシュ・フローは、借入金の返済を行ったことなどにより、1,789百万円の支出となった。

Ⅱ. 2016年度のトピックス

1. 事業拡大に向けた取組

- ・中期計画最終年度で新規売上63億円達成(計画並)

項目	実績
ハーネス加工用機械・部品	20億円
産業機械用ハーネス	14億円
太陽光関連製品	10億円
車載用ハーネス	6億円
その他	13億円
合計	63億円

- ・メキシコ第2工場でワイヤーハーネスの本格生産開始。
- ・太陽光発電エネルギー・マネジメントシステム(EMS)の開発上市。

2. グローバル事業改革

- ・東南アジア生産販売拠点の再編。
 (MAO、ASN、ASCA清算と、VTO、INOへの集約)

3. ものづくり力の強化

- ・ワイヤーハーネス生産管理システム(ORP)の開発運用開始。
- ・電線一貫生産体制の構築。

1. 事業拡大に向けた取組の強化

- ・エネルギー／自動車／産業機器用製品の開発、市場開拓。
- ・システム事業の推進。

2. グローバル事業の改革

- ・グローバルでの営業力強化。
- ・生産拠点の見直しと競争力強化。

3. ものづくり力の強化

- ・ワイヤーハーネスの生産革新。
- ・教育システムの刷新。

Ⅳ. 2017年度の業績予想

連結損益予想

(単位:百万円)

	2016年12月期	2017年12月期	増 減
売 上 高	36,896	35,000	△1,896
営 業 利 益	1,213	1,100	△113
経 常 利 益	1,072	1,100	28
親会社株主に帰属する 当期純利益	△363	600	963
配 当 金	10円	10円	—

製品別売上予想

(単位:百万円)

項 目	2016年12月期	2017年12月期	増 減
新エネルギー	6,764	4,300	△2,464
ワイヤーハーネス	20,385	21,000	615
電線・ケーブル	2,593	3,000	407
ハーネス加工用機械・部品	7,153	6,700	△453
合 計	36,896	35,000	△1,896

本資料の将来予想に関する記述は、経済情勢や社会情勢の変化により、実際の業績と異なる場合があることをご承知おき下さい。